

平成 29 年出水期からの防災気象情報の改善について

気象庁では、平成 27 年 7 月の交通政策審議会気象分科会提言「新たなステージ」に対応した防災気象情報と観測・予測技術のあり方を受け、平成 29 年出水期から、防災気象情報に関して 4 つの改善を行います。

1. 「警報級の可能性」の提供（平成 29 年 5 月 17 日 13 時から開始）

雨、雪、風の警報級の現象が 5 日先までに予想されているときに、その可能性を「警報級の可能性」として [高] [中] の 2 段階で発表します。警報級の現象は、ひとたび発生すると命に危険が及ぶなど社会的影響が大きいため、可能性が高くなくても一定程度認められる場合は [中] として発表します。

翌日までの「警報級の可能性」は、毎日 5 時、11 時、17 時に、長野県北部、中部、南部を対象に発表しています。2 日先から 5 日先までの「警報級の可能性」は、毎日 11 時、17 時に、長野県（冬期は長野県北部、中部・南部）を対象に発表しています。

5 日先まで「警報級の可能性」の提供（イメージ）

平成 29 年 月 28 日 11 時 00 分 長野地方気象台発表

長野県北部の警報級の可能性

長野県北部では、29 日までの期間に、大雨警報を発表する可能性がある。

長野県北部	警報級の可能性							
	28 日		29 日		30 日	31 日	1 日	2 日
	夕方まで	夜～明け方	朝～夜遅く					
	12-18	18-6	6-24					
大雨	-	-	[中]		[高]	[高]	-	-
暴風	-	-	-		[高]	[高]	-	-

[高]: 警報発表中、又は、警報を発表するような現象発生の可能性が高い状況。

[中]: [高]ほど可能性が高くないが、警報を発表するような現象発生の可能性がある状況。

詳しくは気象庁ホームページの解説ページ「警報級の可能性」をご覧ください。
http://www.jma.go.jp/jma/kishou/knownbosai/prob_warning.html

2. 「危険度を色分けした時系列」での表示（平成 29 年 5 月 17 日 13 時から開始）

気象警報・注意報の内容について、どの程度の危険度の現象がどの時間帯に予想されるかを分かりやすく伝えられるよう、気象庁ホームページ等において、危険度を色分けして表示しています。

具体的には、警報級、注意報級の現象が予想される時間帯をそれぞれ赤、黄色で表示するなど、危険度とその切迫度が一目で分かる色分け表示を行い、1 時間雨量、風速などの予想値も時間帯ごとに明示します。また、警報に切り替える可能性が高い注意報についても、通常の注意報と視覚的に区別できるように表示します。

警報・注意報の色分けした時系列表示（イメージ）

平成 29 年 月 30 日 5 時 19 分 長野地方気象台発表

長野県の注意警戒事項

長野県では、30 日朝から 31 日明け方まで土砂災害に、30 日昼前から 30 日夜はじめ頃まで暴風に警戒してください。

=====

長野市 [発表] **大雨(土砂災害)、暴風警報**

[継続] **雷、洪水注意報**

30 日昼過ぎまでに洪水警報に切り替える可能性が高い

長野市		今後の推移(■警報級 ■注意報級)								備考・関連する現象		
		30日									31日	
		3-6	6-9	9-12	12-15	15-18	18-21	21-24	0-3		3-6	
大雨	1時間最大雨量(ミリ)	16	30	40	50	80	80					
	(浸水害)											浸水注意
	(土砂災害)											土砂災害警戒
洪水	(洪水害)											
暴風	風向風速(矢印・メートル)	↙3	↘13	↘15	↘17	↘18	↙20	↗15	↙10	↙10		
雷												竜巻、ひょう

■で着色した種別は、今後警報に切り替える可能性が高い注意報を表しています。各要素の予測値は、確度が一定に達したものを表示しています。警報は、警報級の現象が予想される時間帯の最大 6 時間前に発表します。従来の文章形式による表示も継続。

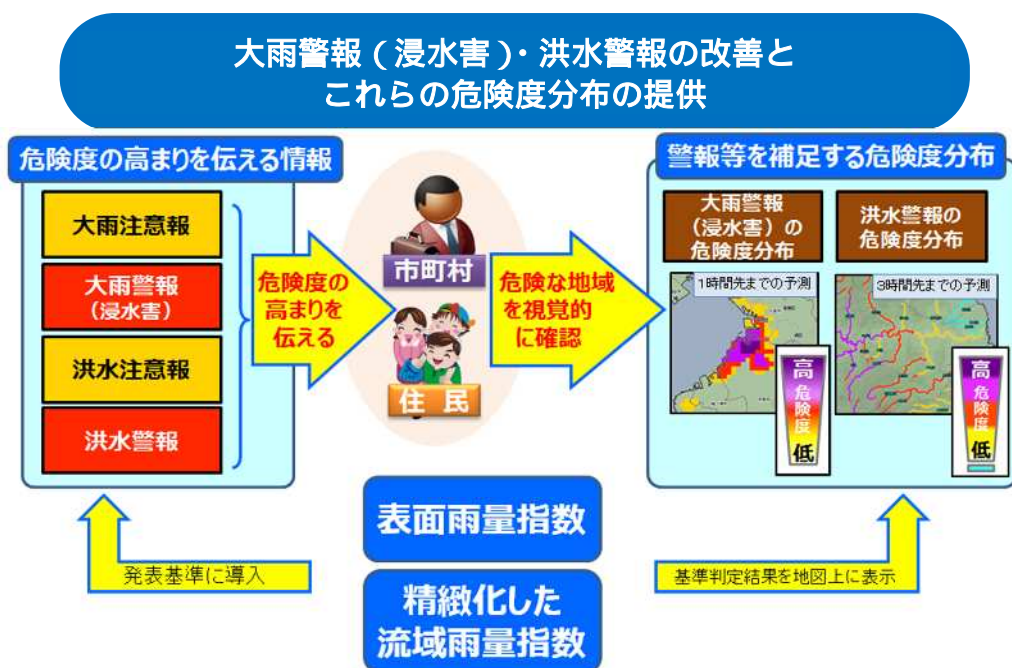
詳しくは気象庁ホームページの解説ページ「危険度を色分けした時系列」をご覧ください。

http://www.jma.go.jp/jma/kishou/knownow/bosai/warning_irowake.html

3. 大雨警報（浸水害）及び洪水警報等の改善と危険度分布の提供
（平成 29 年 7 月 4 日 13 時から実施予定）

大雨警報(浸水害)・注意報の発表基準に、表面雨量指数¹を導入することにより、大雨警報(浸水害)等の浸水害との対応を改善します。また、洪水警報・注意報の発表基準に用いている流域雨量指数を精緻化²することで、洪水警報等の洪水害との対応を改善します。なお、これらに併せて、これらの警報・注意報の発表基準に用いていた 1 時間雨量、3 時間雨量による指標は廃止します。

さらに、表面雨量指数及び流域雨量指数を用いて、市町村内のどこで大雨警報(浸水害)・洪水警報等の発表基準に到達するかを確認できるよう、地図上に危険度を 5 段階で色分け表示した「大雨警報(浸水害)の危険度分布」及び「洪水警報の危険度分布」の提供を開始します。



詳しくは気象庁ホームページの解説ページ「大雨警報（浸水害）の危険度分布」「洪水警報の危険度分布」をご覧ください。

http://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/bosai/riskmap_inundation.html

http://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/bosai/riskmap_flood.html

新たな大雨及び洪水警報・注意報の発表基準については、運用開始日時に合わせ気象庁ホームページに掲載している基準一覧表を更新します。

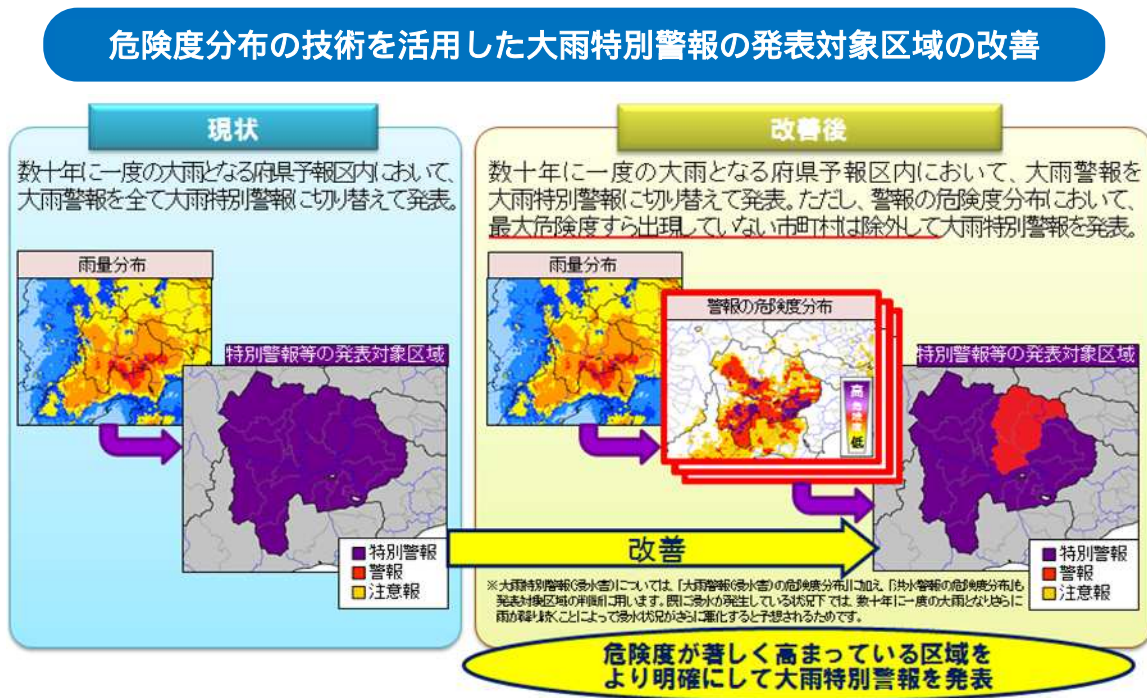
http://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/ki_jun/nagano.html

¹ 表面雨量指数は、降った雨が地中に浸み込まずに地表面にどれだけ溜まっているかを指数化したもので、短時間強雨による浸水害の危険度の高まりを把握するための指標です。

² 流域雨量指数の計算格子を 5km メッシュから 1km メッシュに細かくし、流域雨量指数の計算対象を長さ 15km 以上の河川に限定していたものを小河川にも拡大します。

4. 大雨特別警報の改善（平成 29 年 7 月 4 日 13 時から実施予定）

「大雨警報(浸水害)の危険度分布」、「洪水警報の危険度分布」のほか、すでに提供している「土砂災害警戒判定メッシュ情報」などの危険度分布の技術を活用し、危険度が著しく高まっている市町村をより明確にして大雨特別警報を発表するという改善を行います。



詳しくは気象庁ホームページの解説ページ「危険度分布の技術を活用した大雨特別警報の発表対象区域の改善」をご覧ください。

http://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/bosai/riskmap_emergency-warning.html

本件問い合わせ先
長野地方気象台
電話 026-232-3773